平成23年 6月 7日

第８回最上小国川流域環境保全協議会の開催概要について

標記の環境保全協議会について下記のとおり開催しました。

第８回環境保全協議会では、前回協議会でお示しした付着藻類の影響検討フローに基づいた「付着藻類への影響検討」等について、詳細を説明し御意見をいただきました。

具体的には「第７回協議会における指導事項と対応」「最上小国川ダム事業の検証に係る対応方針」「平成２２年度環境影響調査の報告」「付着藻類への影響検討」「今後の環境調査」について説明し、各委員から活発な御意見をいただきました。

記

１　日　時　　平成２３年　６月　７日（火）　１３：３０ ～ １５：１５

２　場　所　　最上広域交流センター「ゆめりあ」会議室

３　出席者　　９名（１２名中３名欠席）

原委員（委員長代理）、伊藤委員、今井委員、大場委員、萱場委員、小林委員
柴田委員、野口委員、森代理（矢野委員の代理）
（欠席者：中島委員長、梅田委員、横倉委員）

４　各委員からの主な御意見

・今井委員　【猛禽類調査について】
・クマタカは3月調査で造巣行動は確認されていない。どこで繁殖するかが影響の度合を評価する上で重要であるが、今後の調査で評価していくことになる。

・萱場委員　【付着藻類調査結果について】
・年間のデータがたまってきており、洪水も6回経験しているので、予測に必要な情報はかなり整ってきている。
・研究成果によると、アユの肥満度を維持するには強熱減量40%位が目安と言われている。アユが多い長沢橋下流の強熱減量が高く、データが現場の状況と非常によく対応しており、信頼できるデータといえる。
・影響検討にあたって、データが十分であれば、5月調査を含めて一度整理して、不足部分があれば、適宜データを収集すればよい。

・原委員長代理　【付着藻類調査結果について】
・今までの付着藻類調査結果について、①洪水時に付着藻類はどう変化するか、②優占種で珪藻と藍藻が交代しているのが見てとれるが、それはどういう変化なのか、③アユのはみ跡との関係はどうか等について、何か傾向があれば示してほしい。
→[事務局：調査結果を総括してとりまとめる。]

・萱場委員　【付着藻類への影響検討について】
・付着藻類の影響検討について、全体として非常によくまとめられており、問題の有無を評価しやすい資料になっている。
・「付着藻類の剥離」および「生育基盤である河床形状の変化」については、概ねこの内容で良い。
・「生育基盤である河床材料の変化」については、土木研究所の研究事例と併せて、次回以降さらなる検討をして欲しい。
→[事務局：河床材料の変化について、指導をいただきながら、今後も検討していく。]

【開催概況】